

令和 6 年度 西原小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

人間尊重の精神に基づき、知・徳・体の調和のとれた発達を目指し、自主・自立の精神を養い、日本国民の自覚をもって平和的な国家及び社会の形成者として貢献できる心身ともに健康な子どもを育成する。

〔目指す子供像〕

- 元気いっぱい活動する子・・・【元気】
- よく考え工夫する子・・・【がんばり】
- 思いやりがあり親切な子・・・【思いやり】

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

西原小学校は、多くの史跡や文化財に囲まれ、地域人材にも恵まれた地域にあり、創立 115 年の長い歴史の中で、地域の人々の熱い思いに支えられ育てられてきた学校である。

このような地域の特性を踏まえるとともに、新学習指導要領で示された「資質・能力の三つの柱」（「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性」）を育成するために、「地域に開かれた信頼される学校づくり」、「知・徳・体の調和のとれた生きる力を育む教育の実践」、「チームとしての学校力を高めるための組織的な学校づくりの推進」を経営の基盤に据えて、教職員と家庭、地域が一致協力して確かな学力の育成、心豊かで心身共にたくましい児童の育成を目指す。

〔目指す学校像〕心豊かでたくましく みんなで育て みんなで育つ 地域の学校づくり ～西原大家族の創造～

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

全教職員が信頼と協調を基盤とし、互いに高め合う人間関係の中で、学校経営に参画し、活力のある教育活動を推進すると共に、地域学校園における各学校間の連携を深め、小中一貫教育の充実を図る。

- （1）未来に向かって「生きる力（必要とされる資質・能力）」を育む学習指導の充実・・・〔生きる力の育成〕
- （2）夢を育む教育活動の推進・・・〔キャリア教育の推進〕
- （3）学年・学級経営の充実と個に応じた支援の強化・・・〔学校生活の充実〕
- （4）教職員の資質向上と学校力を高めるための組織的な学校づくりの推進・・・〔学校力の強化〕
- （5）学校・家庭・地域との連携を基盤とした開かれた学校づくりの推進・・・〔信頼される学校〕

〔一条地域学校園教育ビジョン〕

基本をしっかり身に付け、地域に生きる子供を育む一条地域学校園

4 教育課程編成の方針

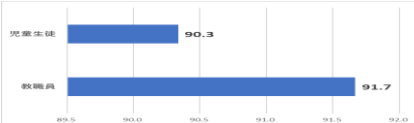
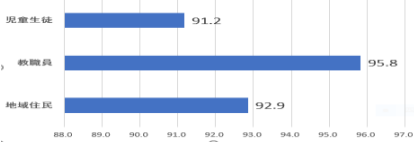
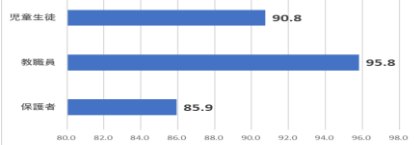
- （1）教育基本法、学校教育法及び同施行規則、学習指導要領を踏まえ、栃木県教育委員会の指導の指針、宇都宮市教育委員会の「第 2 次学校教育推進計画後期計画」「うつのみや元気っ子プロジェクト」の示すところに従うとともに、地域とともにある学校づくりの趣旨を踏まえ、社会に開かれた教育課程を編成する。
- （2）教育目標の具現化を図るため、本校の実態（施設・設備・職員構成・地域環境）、児童の発達段階や特性、地域社会や保護者の願いなどを踏まえ、心豊かでたくましい児童の育成を目指し、知・徳・体の調和の取れた生きる力を育む教育課程を編成する。
- （3）生きる力の基礎となる資質・能力を育成し、自ら学び、自ら考える力の育成と基礎的・基本的な学力の確実な定着と向上が図れるよう、各教科・特別の教科道徳・特別活動及び総合的な学習の時間・宇都宮学・プログラミング的思考力を育成する学習・外国語活動及び外国語科の特性を生かしながら、本校ならではの「学び続ける力」を核とした教科横断的な視点に立って教育課程を編成する。
- （4）小中一貫教育の趣旨を踏まえた各教科等の「育てたい力」を教育課程に反映させ、義務教育 9 年間を通した学力保障につなげることができるようにする。

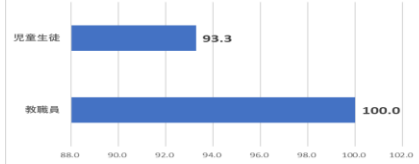
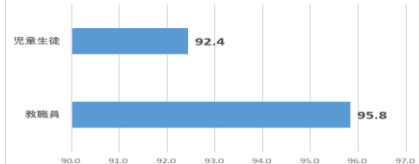
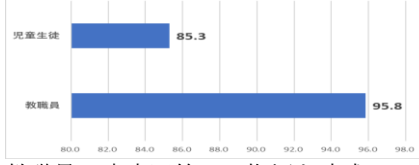
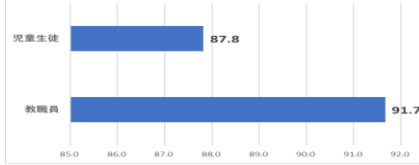
5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

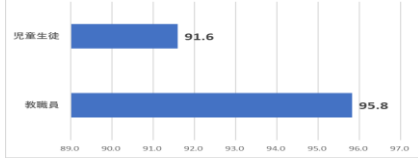
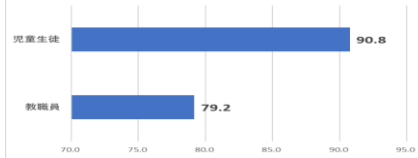
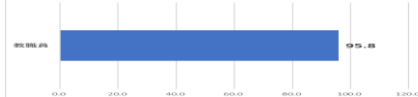
- （1）学校運営
 - ・全教職員による目的の共有化と学校経営参画意識の醸成
 - 校務・事務の適正化と勤務時間を意識した働き方改革の推進
- （2）学習指導
 - ・よりよく生きるために学び続ける児童の育成
 - 主体的・対話的で深い学びを通して「学びの実感」をつくる
- （3）児童生徒指導
 - ほめて育て、認め合う指導の徹底と自己有用感を高める支援の充実
- （4）健康（保健安全・食育）・体力
 - 自ら体力を伸ばす態度や自己の健康管理能力の育成を図る指導

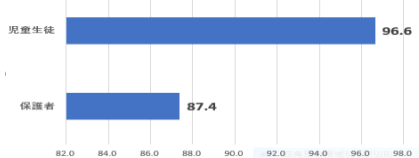
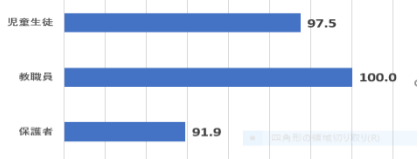
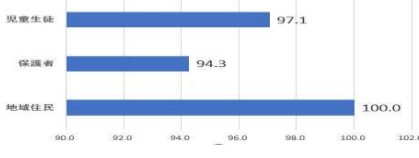
6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

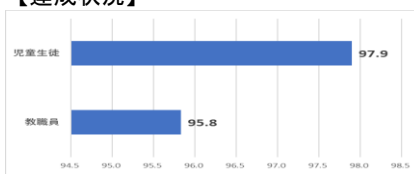
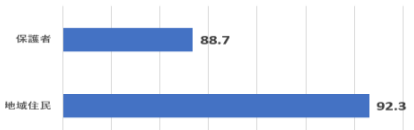
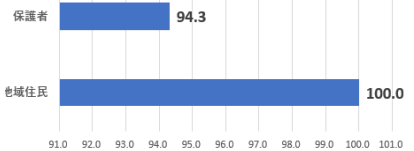
※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入
※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

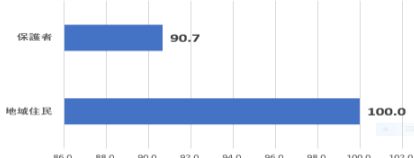
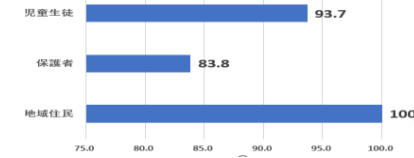
第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評 価
1-1 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 ・全体アンケート「児童は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	・児童一人一人が主体的に授業に参加し、自分の考えをもって学習が進められるように、学習を自分事にするめあてのめたせ方や、意見を交流させる場の設定、振り返りの仕方を工夫する。 ・児童一人一人が「学び続ける力」を身に付けられるようカリキュラム・マネジメントに努め各種計画に反映させていく。	B	【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は、指標を達成している。 【次年度の方針】 引き続き ・児童一人一人が主体的に授業に参加し、自分の考えをもって学習が進められるように、学習を自分事にするめあてのめたせ方や、意見を交流させる場の設定、振り返りの仕方を工夫する。 ・児童一人一人が「学び続ける力」を身に付けられるようカリキュラム・マネジメントに努め各種計画に反映させていく。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 ・全体アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上	・道徳教育の充実を図るとともに、学校生活全般にわたり、思いやりのある行動が見られる児童を称賛しながら、すべての教育活動の場で支援・指導する。		【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は、指標を達成している。 【次年度の方針】 ・道徳の授業の充実や児童会主催の思いやりのメッセージを送り合う活動を継続して行い、学校生活全般にわたり、児童の心を育てていく。
	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 ・全体アンケート「児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	・児童一人一人の目標と目指す子ども像「元気・がんばり・思いやり」を関連付け、めあてに記入することで、具体的に取り組んでいけるよう支援する。 ・学校行事などを通して、粘り強く目標に向かって努力できるように励ましていく。		【達成状況】  児童・教職員の肯定回答は、指標を達成しているが、保護者が4.1ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・家庭学習強化週間を設置し、家庭でも粘り強く取り組む様子を見てもらう。 ・ホームページや各種たよりを通じて粘り強く目標に向かって努力している児童の様子を発信していく。

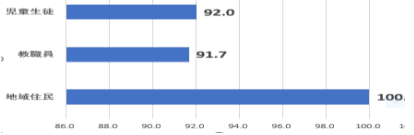
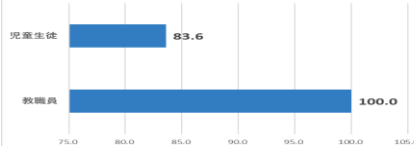
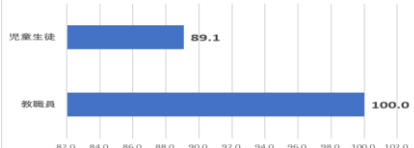
1 (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 ・全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	・児童に提示する生活目標に健康や安全に関する項目を必ず入れるようにすることで、意識の向上を図る。	B 【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は、指標を達成している。教職員においては、100%である。 【次年度の方針】 ・引き続き生活目標に健康や安全についての項目を入れ、意識の向上を図る。
1 (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 ・全体アンケート「児童は、自分の良さや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	・学級活動を計画的に実施することで、楽しく豊かな学校生活を築くための基礎となる学級内の好ましい人間関係を育て、集団のなかで自己を生かすことができるようにする。	B 【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は、指標を達成している。 【次年度の方針】 ・今後も、児童の意見が反映されるような機会を設け、意見を伝えやすい雰囲気づくりに努め、児童の自己有用感を高められるようにしていく。
2 (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 ・全体アンケート「児童は、外国語活動（英語）の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	・ALT との授業や遊び・読み聞かせなどを通して、児童の簡単な英語を使ったコミュニケーション力の向上を図る。	B 【達成状況】  教職員の肯定回答は、指標を達成しているが、児童が 4.7 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・児童は、無意識にALTと授業や給食の時間に英語でコミュニケーションを取っていると考えられる。簡単な挨拶のやり取りもコミュニケーションの一つだと気付かせたり、意識させたりし、ALTと授業以外に関わる機会を増やすようにする。
	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 ・全体アンケート「児童は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	・「ふるさとウォークラリー」を学区内で行うことを通して、歴史的な文化財や史跡が点在する自分の学区に興味をもたせる。また、他県・他市と比べたりすることにより、宇都宮のよさに気付かせる。	B 【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は、指標を達成している。 【次年度の方針】 ・「ふるさとウォークラリー」を学区内で行うことを通して、歴史的な文化財や史跡が点在する自分の学区に興味をもたせ、総合的な学習や生活科などの学習と繋げ、児童が自主的に調べ学習を続けられるよう働きかけを工夫する。

2 (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 ・全体アンケート「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	・学校図書館司書と連携し、計画的に図書・教材等選定委員会を開き、分類ごとの過不足や利用状況等をもとに、図書室の利便性を高める手立てを検討して学習に関連する図書の紹介と図書館の利用喚起を図る。 ・情報教育主任による校内への情報発信や ICT 支援員と連携し教職員のタブレット活用の教育実践力の向上を図り、児童が「日常の文具」としてタブレットを活用できるようにする。	【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は、指標を達成している。 【次年度の方針】 ・学校図書館司書と連携し、学習に関連する図書の紹介と図書館の利用喚起を図る。また、学習に図書等を活用したときは、学年だよりで知らせ、家庭でも話題になるようにする。 ・情報教育主任による校内への情報発信や ICT 支援員と連携し教職員のタブレット活用の教育実践力の向上を図り、児童が「日常の文具」としてタブレットを活用できるようにする。
2 (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 ・全体アンケート「児童は、環境問題や防災等の『持続可能な社会』について関心をもっている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	・係活動や委員会活動で、掲示物や配付物等にSDGsのアイコンを入れることで、児童の関心を高める。 ・社会、家庭科、総合的な学習の時間など、「持続可能な社会」に関連する単元においてSDGsを意識した授業を行う。（年計にアイコンを貼る）	【達成状況】  児童の肯定回答は、指標を達成しているが、教職員が 5.8 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・引き続き、係活動や委員会活動で、掲示物や配付物等にSDGsのアイコンを入れることで、児童の関心を高める。 ・各教科等において、「持続可能な社会」に関連する単元においてSDGsを意識した授業を行う。 ・職員各係からの各計画にSDGsのアイコンを入れることで、職員の意識も高める。
3 (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ・全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	・児童の実態を的確に捉え、全教職員が共通理解を図る場を適宜設定する。 ・全教職員が特別支援教育の視点を生かして支援にあたる様に、校内研修の充実を図る。	【達成状況】  肯定回答は、指標を達成している。 【次年度の方針】 ・今後も、特別支援の視点から校内研修を計画したり、児童に関する情報共有を行ったりし、適切な支援を目指していく。

3-1 (2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 ・全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ・全体アンケート「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	・教職員は児童理解を深め、信頼関係の構築に努める。また、児童会を中心とした児童主体の取組を行うとともに、授業や生活のあらゆる場面をとらえていじめを許さない態度やいじめに気付き手を差し伸べる実践力を育てる。 ・教育相談などでいじめの早期発見、早期対応に努める。また、いじめゼロ標語の紹介やいじめゼロ集会の様子をホームページで地域や家庭に伝えていく。	【達成状況】  児童生徒 96.6 保護者 87.4 児童の肯定回答は、指標を達成しているが、保護者が 2.6 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・教育相談やいじめアンケートを定期的に行うことにより児童に寄り添う。また、学級活動や道徳の授業を通していじめは許されないことを指導していく。
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 ・全体アンケート「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ・全体アンケート「教職員は、一人一人の児童を大切に、児童がともに認め励まし合う学級づくりを行っている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	・欠席状況等の情報を共有し日々の生活の様子から不登校の兆候を素早く見極め、個に応じた支援や指導を行うとともに、「居がいい」を感じる学級経営を推進する。	【達成状況】  児童生徒 97.5 教職員 100.0 保護者 91.9 すべての対象において、肯定回答は、指標を達成している。教職員においては、100%である。 【次年度の方針】 ・お互いの違いを認め合えるように、学級支援を行い、自己肯定感や自己有用感を味わえる学級経営を推進する。
3-1 (3) 外国人児童生徒への適応の支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 ・全体アンケート「先生は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしたりして、児童が楽しく学校生活を送れるようにしている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ・全体アンケート「教職員は、児童の悩みに寄り添い、相談に乗ったり、問題の解決に努めたりして、児童が明るくいきいきと学校生活を送れるようにしている。」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ・全体アンケート「学校行事等において、様々な立場の児童が、互いを尊重し協力し合って活動を行っている。」 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上	・児童一人一人の頑張りやよさを認めたり、善行を奨励したりする場を設定し、認め励ます教育を推進する。また、多くの児童が認められ活躍できる機会を増やし、特別活動を中心に児童が生き生きと主体的に活動し、楽しく学べるようにする。	【達成状況】  児童生徒 97.1 保護者 94.3 地域住民 100.0 すべての対象において、肯定回答は、指標を達成している。地域住民においては、100%である。 【次年度の方針】 ・児童会活動や縦割り班活動、「西原ふるさとウォークラリー」などの特別活動を中心に、児童一人一人の頑張りやよさを認めたり、活躍できる機会を設定したりして、児童が生き生きと主体的に活動できるようにする。

4 － (1) 教 職 員 資 質 ・ 能 力 の 向 上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 ・全体アンケート「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ・全体アンケート「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	・かがやきルーム担当や学習支援員などと連携を取り、発達の段階や個に応じた学習支援を大切にしながら、家庭とも協力し家庭学習の習慣化を目指す。 ・教職員が連携し、学年間で定期的に教科指導の在り方や教材研究について話し合う機会を設け、よりきめ細やかな指導を目指す。	B	【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は、指標を達成している。 【次年度の方針】 ・かがやき学級担当や学習支援員などと連携を取り、発達の段階や個に応じた支援を大切にしながら、学習を進めていく。 ・教職員が連携し、学年間で教材研究や指導方法などについて定期的に話し合う機会を設け、より効果的で、よりきめ細やかな指導を目指す。
4 － (2) チ ャ ッ ム 力 の 向 上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 ・全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	・職員全員が、それぞれの立場で積極的に児童と関わりながら、各自の専門性を生かしてチームとして職務を遂行する。	B	【達成状況】  肯定回答は、100%で指標を達成している。 【次年度の方針】 ・今後も職員全員が、それぞれの立場で積極的に児童と関わりながら、各自の専門性を生かしてチームとして職務を遂行する。
4 － (3) 学 校 に お け る 働 き 方 改 革 の 推 進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 ・全体アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	・勤務時間の自己管理を通して、勤務時間を意識した働き方に努めるとともに、定時退勤や年休取得を進め、働き方に対する意識の変革を図る。 ・西原小のとびらや掲示板、HP の活用により、可能な限り業務を縮減し、ペーパーレス化を進める。	B	【達成状況】  肯定回答は、100%で指標を達成している 【次年度の方針】 ・働き方改革推進委員会を更に活性化し、楽しみながら負担無く、働き方改革に取り組んでいく。
5 － (1) 全 市 的 な 学 校 運 営 ・ 活 動 の 充 実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ・全体アンケート「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ・全体アンケート「学校は、小学生と中学生の交流の場をつくったり、掲示物で互いの学校の情報を伝え合ったりする「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 ⇒地域住民の肯定的回答 85%以上	・地域学校園 A,B シートを活用し、各教科等における地域学校園「育てたい力」を意識しながら、日々の学習活動に取り組むとともに、C シートにより、各種データに基づく検証を行う。	B	【達成状況】  地域住民の肯定回答は、指標を達成しているが、保護者が 1.3 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・保護者、地域に地域学校園の取り組みを HP や各種たよりで紹介していく。
5 － (2) 主 体 性 と 独 自 性 を 生 か し た 学 校 経 営 の 推 進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連	・企業の協力を得た出前授業や地域と連携した体験活動を盛り込んだ教育活動を進めたり、教育活動を家庭、地域に開放する機会を増やしたりしていく。	B	【達成状況】 

5 ー (3) 地 域 と 連 携 ・ 協 働 し た 学 校 づ くり の 推 進	携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 ・全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上			すべての対象において、肯定回答は、指標を達成している。地域住民においては、100%である。 【次年度の方針】 ・引き続き、企業の協力を得た出前授業や地域と連携した体験活動を盛り込んだ教育活動を進めたり、教育活動を家庭、地域に紹介する機会を増やしたりしていく。
6 ー (1) 安 全 で 快 適 な 学 校 施 設 整 備 の 推 進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ・全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上	・定期的な安全点検の実施など、日常的に施設設備の安全に目を配り、修繕が必要な場合は迅速に対応する。	B	【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は、指標を達成している。地域住民においては、100%である。 【次年度の方針】 ・引き続き定期的な安全点検の実施を行うとともに、生活当番を中心として日常の校内巡視を行い、安心して生活できるように努める。
6 ー (2) 学 校 の デ ジ タ ル 化 推 進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 ・全体アンケート「教職員は、授業（授業準備も含む）や業務の改善に、デジタルを積極的に活用している。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	・ICT 支援員と連携を取り、GIGA スクール構想について保護者への周知に努めたり、環境整備や児童のスキル向上を目指したりする。	B	【達成状況】  肯定回答は、指標を達成している。 【次年度の方針】 ・今後も、ICT 支援員と連携を取り、GIGA スクール構想について保護者への周知に努めたり、環境整備や教職員・児童のスキル向上を目指したりする。
小・中 学 校、 地 域 学 校 共 通 本 校 の 特 色 ・ 課 題 等	B 1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 ・全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上	・児童会活動を中心とした「朝のあいさつ運動」や「地域学校園あいさつ運動」を実施し、来校者や校外でも挨拶がしっかりできるように、具体的に指導していく。	B	【達成状況】  児童・地域住民の肯定回答は、指標を達成しているが、保護者が 6.2 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・日常的に「こんにちは」「ありがとうございます」等のあいさつが自ら進んでできるよう、教職員から積極的に声かけを行い、児童会を中心として、あいさつに関するイベントを計画していく。

B 2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 ・全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って生活をしている。」⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ・全体アンケート「児童は、登下校での交通ルールなど、きまりやマナーを守って、生活している。」⇒地域住民の肯定的回答 90%以上	・「学習の約束」や「西原小よい子の一日」の指導徹底を図るとともに、生活当番活動を通して、日常の生活の様子を把握し、校内の巡視等を行うとともに、実生活の場で直接指導する。	B	【達成状況】  児童生徒 92.0 教職員 91.7 地域住民 100.0 すべての対象において、肯定回答は、指標を達成している。地域住民においては、100%である。 【次年度の方針】 ・今後も「学習の約束」や「西原小よい子の一日」の指導徹底を図るとともに、生活当番活動を通して、日常の生活の様子を把握し、校内の巡視等を行い、実生活の場で直接指導する。
B 3 児童は、1時間の学習を通して学びの実感が得られている。 【数値目標】 ・全体アンケート「児童は、分かったことや自分の考えで変わったことをまとめている。」⇒児童の肯定的回答 90%以上 ・全体アンケート「教職員は、児童が自分の考えをうまく表せるよう授業の展開や指導方法を工夫している。」⇒教職員の肯定的回答 90%以上	・児童が「分かった」「今まで〇〇だったけど、△△に変わった」等、学んだことを実感でき、より深く考えるためのヒントになるような板書を工夫したり、お互いの考えを交流させたりする活動などを取り入れ、考える力を伸ばす。	B	【達成状況】  児童生徒 83.6 教職員 100.0 教職員の肯定回答は 100%で、指標を達成しているが、児童が 6.4 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・児童が「分かった」「今まで〇〇だったけど、△△に変わった」等、学んだことを実感できるような振り返りや、板書を写すだけでなく、キーワードを使って自分の言葉で本時の学習をまとめられるような方法を工夫する。
B 4 児童自ら判断し、主体的に取り組むことができる活動の充実に努めている。 【数値目標】 ・全体アンケート「児童は、自分で判断し工夫して学校行事や係活動などに取り組んでいる。」⇒児童の肯定的回答 90%以上 ・全体アンケート「教職員は、児童自ら判断し活動できるような場の設定や支援を行っている。」⇒教職員の肯定的回答 90%以上	・学校行事や係活動、委員会活動では、具体的に自分のめあてをもたせ、児童が自ら計画・実践できる機会を増やし、より主体的に活動できるように支援する。	B	【達成状況】  児童生徒 89.1 教職員 100.0 教職員の肯定回答は 100%で、指標を達成しているが、児童が 0.9 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・児童の主体的活動をピックアップして周知するとともに、称賛の場を設けていくことで、自ら判断することの良さを実感できるようにしていく。
B 5 児童は目標をもって自分の健康や体力の向上に進んで取り組んでいる。 【数値目標】 ・全体アンケート「私（児童）は、めあてをもって自分の健康や体力の向上に進んで取り組んでいる。」⇒児童の肯定的回答 90%以上 ・全体アンケート「教職員は、児童の健康や体力の向上のための活動を工夫して行っている。」⇒教職員の肯定的回答 90%以上	・児童一人一人の状況を把握した上で、保健指導や体育の授業の充実を図り、自分の健康や体力に関心をもたせる。	B	【達成状況】  児童生徒 85.3 教職員 100.0 教職員の肯定回答は 100%で、指標を達成しているが、児童が 4.7 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・生活チェックを実施し、自分の生活習慣を見直す機会を設けたり「元気っ子チャレンジ」を積極的に実施し、体力向上に関心をもたせたりする。

	B 6 教職員は自らの資質向上を目指して、研修を深めている。 【数値目標】 全体アンケート「教職員は、資質向上のための取組を積極的に行っている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	・自ら立案した研修計画を基に各種研修等に積極的に参加している。 ・一人一授業等の取組を通して授業改善に努めている。	【達成状況】  肯定回答は、指標を達成している 【次年度の方針】 引き続き ・自ら立案した研修計画を基に各種研修等に積極的に参加していく。 ・学校課題、一人一授業等の取組を通して授業改善に努めていく。
--	---	--	--

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 肯定回答が、目標対象回答者において指標を上回り、良好と考えられる項目が17項目（26項目中）であった。そのことから、計画に基づく教育活動の展開が概ね適切に行われたと考えることができる。 - 昨年度、児童の肯定回答率が市の指標を下回り課題となっていた A7「児童は宇都宮の良さを知っている」については、「西原ふるさとウォークラリー」を学区内で行うことを通して、歴史的な文化財や史跡が点在する自分の学区に興味をもったり、他県・他市と比べたりすることにより、宇都宮の良さに気付くことに繋がり、肯定回答率が指標を達成した。 - 昨年度、児童・保護者の肯定回答率が本校の指標を下回った A3「児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」については、児童の肯定回答率は向上し、肯定回答率が指標を達成した。保護者に関しては、指標に達していないため、引き続き、目標に向かって努力している児童の様子をホームページや各種たよりを通じて発信していく。 ○B1の「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」については、児童・地域において指標を達成している。地域においては、100%であった。しかし、保護者の指標が下回っていることから、日常的に「おはよう」、「ありがとう」等の挨拶が家でも進んでできるよう、取り組んでいく。 - B3の「児童は1時間の学習を通して学びの実感が得られている」については、教職員の指標は100%で達成しているが、児童の指標が下回っていることから、児童が「分かった」、「今まで○○だったけど、△△に変わった」等、学んだことを実感できるような振り返りをしたり、キーワードを使って自分の言葉で本時の学習をまとめたりして、学びの実感を得られるようにしていく。
--

7 学校関係者評価

- 一昨年、昨年と比べて全学年とも授業中、落ちついて授業に取り組んでる。 - タブレットのスキルが確実に上がっているように思う。 - コロナ禍の時より生き活きとした表情の子どもたちが多いように感じる。 - コロナが収束し、公園で遊ぶ子供が増えてきたことは良いが、自転車の乗り方が危ない児童がいるので気になる。 「宮っこを守り・育てる都市宣言」が制定され、子供たちが、将来の職業選択の幅が広がる学習活動を行っていると思うが、今後も学校で取り組んでいただきたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 地域住民による評価が、A2・A17の92.3%を除いて100%であったことから、本年度の学校経営において、好評価をいただいた。引き続き、学校・家庭・地域との連携を基盤とした開かれた学校づくりの推進をしていく。 - A7「児童は宇都宮の良さを知っている」については、「西原ふるさとウォークラリー」を学区内で行うことを通して、歴史的な文化財や史跡が点在する自分の学区に興味をもったり、他県・他市と比べたりすることにより、宇都宮の良さに気付くことに繋がった。次年度はさらに、ウォークラリーを核として通年で地域を活用した学習を、地域や保護者の協力を得ながら実施し、地域を愛する心を育成していく。 - ボランティアの高齢化に伴い、地域学校協働活動推進員と学校が連携をしながら、有効な手段を講じて、次年度も学習支援ボランティアの協力依頼や募集を検討し、メンバーの充実を図っていく。 ○B1の「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」については、児童・地域において指標を達成している。地域においては、100%であった。しかし、保護者の指標が下回っていることから、日常的に「おはよう」、「ありがとう」等の挨拶が家でも進んでできるよう、「おうち・あいさつ週間」を設定するなど、家庭と連携・協力して取り組んでいく。 - 児童が、将来の職業選択の幅が広がる学習活動に関しては、6学年の総合学習「西原の先輩に学ぼう」で行っている、地域の方々に「仕事の話」を伺ったり、実際に仕事を体験したりする活動等を引き続き行う。また、学年に応じたキャリア教育を継続し、「キャリアパスポート」に残し、家庭とも共有していく。
--